

講義名	キャリア実践論（3年生のみ）		
科目区分	キャリア		
担当教員	中山 一郎		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

大学生は、就職という社会への入口に不安を抱いている。学生は多種多様なスキルを評価する就職試験にも戸惑いがある。就活はスタートラインである「何のために働くのか」という働くことの意義を自覚し、その上で社会・企業が求めている社会人基礎力を中心とした知識と能力を自ら磨いていくことが大切である。就活は3年生の後期から準備が始まり、4年生の前期まで続く（未決定の場合は卒業まで続くこともある）。就活対象者は自分の強さや長所を再認識し、志望理由を明確化させる必要がある。また企業が期待する求める人材像やコンピテンシーを理解し、自己成長の目標に挑戦していくことが重要となる。授業概要は、自分の強み・弱みを知ること（自己PR）。また、働くことの意義（価値観）、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力（面接・グループディスカッション）を高めるために、実践的な演習を交えて展開する。

到達目標

到達目標は、「なぜ働くのか」、「あなたの強み」、「あなたにとってよい会社の条件」の間に、しっかりとした考え方を身につけることである。その上で自己PRの作成方法と会社選びの基準づくりを学び、総合的な就職力を高めることにある。

- ・SP1等の筆記試験対策で得意・不得意な分野を自己評価する。
- ・自分の強さ・弱さの分析から自己PRをまとめる。
- ・業界企業を分析し、自己PRと志望動機につなげていく。
- ・就職力を高め、自分の立てた目標設定と就職戦略を策定する。

提出課題

①毎回、授業で学んだ内容を確認する「ミニテスト」か「ミニレポート」。

②15回の授業全体をととして学んだ内容を確認する「課題レポート」。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

①「ミニテスト」か「ミニレポート」も②「課題レポート」も採点后に講評、回答、解説をおこないます。

評価の基準

評価の方法

①ミニテストかミニレポート（75%）

②SP1小テスト（10%）

③課題レポート（15%）

注）遅刻、私語、居眠り、スマホいじりなどの迷惑行為は減点の対象とします

※ ①②③を総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

月1の「キャリア実践論」と同じ名称の授業ですが、4年生は火2の授業を履修してください（3年生は月1の授業を履修してください）。

就職志望の4年生でまだ就職活動を継続している学生は必ず受講してください。就職部と連携して就職活動の支援も行っています。

教科書	. エピソードの就活～キャリアカウンセラーが教える7つのステップ～. 中山一郎	見洋書房	1,900円(税別)	978-4-7710-2829-6

プリント資料及び参考文献

プリント資料及び参考文献に関しては、使用する際に適宜配布、紹介します。

授業計画

回数 授業計画

- 1 イントロダクション：就職活動をスタートするにあたって
- 2 なぜ働くのなるうか
- 3 就職活動の流れを知る
- 4 就職するとは何か
- 5 業界研究と企業研究（1）
- 6 業界研究と企業研究（2）
- 7 筆記試験（1）
- 8 筆記試験（2）
- 9 職種研究（1）
- 10 職種研究（2）
- 11 履歴書・エントリーシート
- 12 グループディスカッション
- 13 面接
- 14 就職活動の戦略の立て方
- 15 まとめ

* 受講者の人数や状況に応じて講義内容やスケジュールは変更される可能性があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/>	ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="radio"/>	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

就職活動をするために、授業内での宿題や課題だけでなく、①自己分析 ②業界地図や就職四季報、企業HP等での企業研究・仕事研究 ③SPIなどの筆記試験対策など 以上①～③について1日1時間は予習や復習などの準備学習を行うこと。 具体的な方法は授業内で紹介していきます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
具体的な事例やケーススタディーを紹介します。

備考